| 印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業<br>地域振興策検討委員会第１０回会議　会議録（概要版） | |
|---|---|
| 議　題 | 地域振興策検討委員会第１０回会議 |
| 日　時 | 平成 28 年 3 月 27 日（日）　13:00～14:10 |
| 場　所 | 印西地区環境整備事業組合　３階大会議室 |
| 出席者 | 委員：６名（松崎区未選出）、事務局：６名、関係市町：３名、<br>コンサル：４名 |
| 配付資料 | 印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会<br>第１０回会議資料ほか |

主　た　る　事　項

１．開会

会議録署名は加藤副委員長と齋藤委員を指名。

２．会議録について（第９回会議）

(1) 次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会第９回会議録（概要版・全文会議録）について、事務局より説明。

３．施設整備基本計画検討委員会第１０回会議の報告について

(1) 次期中間処理施設整備事業施設整備基本計画検討委員会第１０回会議の概要について、事務局より説明。

４．地域振興策に関する意見書について

意見書の提出なし。

５．答申書（案）について

(1) 答申書（案）について、事務局より説明。（収益事業の検討はコンサルより説明）

(2) 委員長挨拶文の「はじめに」の記述について、これまでの検討経緯からすると、「暮らしやすく快適なまち」は「暮らしやすく持続できる快適なまち」としたほうが良い。

⇒意見のとおり修正。

(3) 1-(3)-16ページの環境図書室の概要欄について、「廃棄物（特に３Ｒ）」は「循環型社会・廃棄物（特に３Ｒ）」としたほうが、当検討委員会として相応しい表現になる。

⇒意見のとおり修正。

６．その他（委員挨拶から要点抜粋）

(1)現状の相続制度や農業経営の実態からすると、今後、里地里山の地権者が拡散し、資材置き場等のバックヤード的な土地利用に移行するのが目に見えていることから、里地里山の良好な景観と機能を維持すべく、地権者組合などを設立し、権利を集約した上で里地里山を維持・管理・活用する仕組み作りが求められる。この点は、建設候補地の用地にも当てはまることなので、専門家のアイデアを活用するなどし、地権者をサポートしてあげることが必要だと思う。

(2)思いもよらぬ所有権の移転や、相続による権利者の拡散は、他の公共事業でも問題となったケースがあることから、意見のあった地権者組合などの設立も含め、適切な対策をお願いしたい。

(3)吉田の里地里山の自然学習のお手伝いをボランティアでできればという夢を抱いているので、何かお役に立てるようなことあれば、声を掛けていただけるとありがたい。

(4)印西地区の全住民に、地域振興策の展開を含む次期中間処理施設整備事業は地域活性化の起爆剤であり波及効果が印西地区全域に広がることを理解していただく必要がある。せっかく素晴らしい答申書がまとまったのに、絵に描いた餅で終わってはいけない。印西市の市長、関係部署及び市議会の理解と手腕に期待している。また、できるだけ国県の財政的支援を受けられるような知恵出しも期待している。

(5)吉田区は過疎化が進み若い人がどんどん外に出ていることから、地元の住民達はいかにこの吉田区を維持していくかについて、日頃から本当に危惧している。吉田区は旧印旛村時代から行政区域の端に位置していることから、「自分のことは自分でしないと何ともならない」という気持ちが歴史的に脈々と受け継がれている。よって、今回、地域として次期中間処理施設整備事業を逆にチャンスと捉えたのだと思う。委員の皆様が「検討委員会に参加して本当に良かった」と思っていただけるような素晴らしい地域振興策を展開したいと心より考えている。

(6)答申書にまとめた地域振興策のアイデアは断片的なものだが、うまく有機的な結合ができれば、事業そのものが意思決定力を持つものに育つのではないかという期待をしている。

(7)意見があったように、地域振興策のアイデアはエレメントとして多く抽出されたが、今後、一つの有機体にきちんとつくり上げていく必要がある。また、土地の所有は大別すると個別所有と共有の２つだが、実はその中間が色々ある。代表的なものとして総有（コモン）が挙げられる。この考え方は人口が減る社会の中、都市も農村も関係なく必要になると思う。総有はコミュニティーによる地域の土地のマネジメントをいかに上手に進めるかが問われるが、昔の入会地のような総有は現代ではうまくいかないので、いかに上手に近代化するかが実は大きな課題となる。今後は、何をするのか検討することも重要だが、以前説明した３ポイントアプローチ（デザイン・スキーム・ビジネス）の内、スキームの部分も重要となる。つまり、どういう所有関係、どういう資金状態、どういうやり方で事業を進めるかという点である。吉田区では上手に事業を進めていただけると思うので、今、我が国が地方創生など色々な形で直面している問題のパイオニアになるのではないかと期待している。

７．閉会

※　傍聴者　：　５名